

# 令和7年度学校評価報告書

新城市立新城小学校

## 1 目標と学校評価の概要

### (1) 本校の教育目標

新城小での学びを自信と誇りに、未来をたくましく生きる子どもを育てる。

### (2) 経営方針

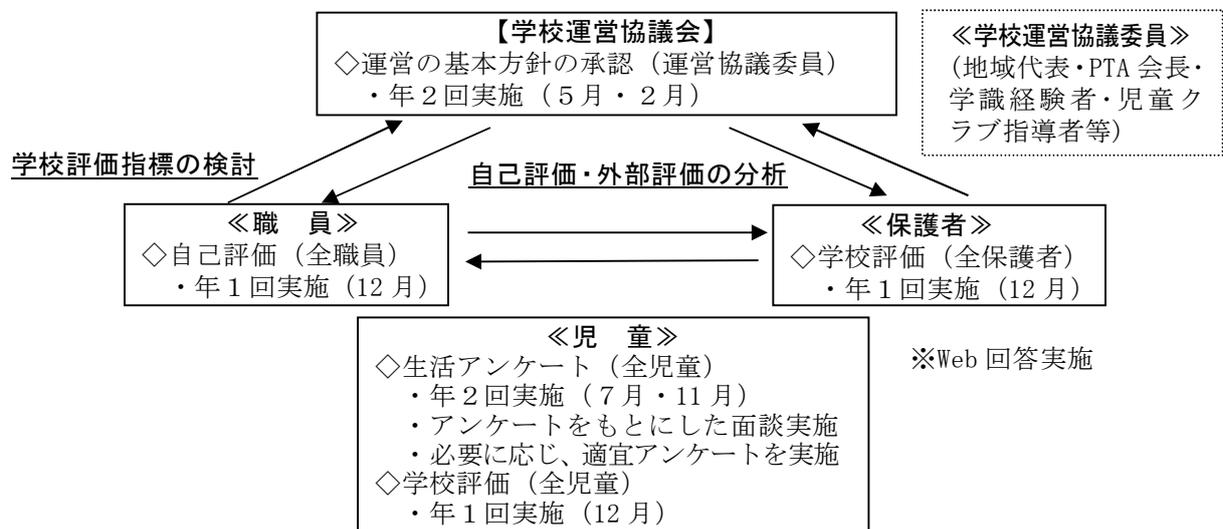
校訓「よく学び・よく遊べ・心豊かに・きまりよく」を合言葉に、子ども理解に努め、家庭や地域と連携することで、子どもたちが「学校へ来るのが楽しいな」という学校経営を志向します。

- ① 心身の安心安全が担保された教育環境を整えます。
  - ・子どもにとっての最大の教育環境は「教師」
- ② 子どもにとって魅力のある授業実践を積み重ねます。
  - ・問題解決の過程を大切にした授業
  - ・他者とかかわり合って問題を解決しようとする場面がある授業
- ③ 日常を大切にし、よい生活習慣を身につけさせます。
  - ・あいさつの励行 「おはよう」「おはようございます」
  - ・豊かな心、相手を思いやる心を育む「たてわり活動」や外遊び

### (3) 本年度の重点努力目標

- ① 子どもの側に立ち、子どもの内側を読み解くことに努めます（記録と分析）。
- ② 給食受入施設関連工事に伴う事故ゼロ及び学校安全に万全を期し、事故（交通事故含む）や災害、防犯等に努めます。（危機管理に関する各マニュアルの整理）。
- ③ 研究的に実践を進めるとともに、授業力向上プロジェクト「みがく」や各種研究・研修会への参加を促します。
- ④ 授業の周辺事項（朝の会、学習規律、学習環境）や、よい生活習慣（朝のあいさつ、時間を守る、黙動清掃など）を整えます。
- ⑤ 特別支援学級と交流学級の連携を重視するとともに、特別な支援が必要な子どもに対して、保護者や他機関と連携しながら計画的且つきめ細かな指導を行います。
- ⑥ 不登校傾向の子どもや家庭に対して、他機関と連携してはたらきかけ登校を促すとともに、新たな一人を出さないよう子どもの小さな変化を共有する体制をつくります。
- ⑦ 日本語指導を必要とする子どもに対して、きめ細かな対応を行います。
- ⑧ 教職員の時間外勤務を月45時間、年間360時間以内にするため、多忙化解消に向けた意識改革をさらに進めます。

### (4) 学校評価組織



## 2 学校教育活動 ～重点努力目標の一例～

### (1) 重点努力目標 ⑥不登校傾向の子どもや家庭への対応

#### ① 関係機関と連携した登校支援

- ・子ども家庭センター等、外部の専門機関との連携
- ・子どもサポート相談員と連携した、児童・保護者への支援

#### ② 小さな変化を共有し不登校を未然に防ぐ体制の構築

- ・教室に入りづらい児童が安心して過ごせる「雄飛の部屋」の設置
- ・「子どもを語る会」や校務支援システムを活用した、児童の様子との共有

#### ③ チームで支援をすることのスキルをアップさせる研修の実施

- ・10月9日(木) 愛知県総合教育センター 教育研究サポートデスク出前講座  
テーマ 「組織を生かす教育相談づくり」

講師 愛知県総合教育センター研究指導主事 中野 佳美 様、杉山 寛仁 様

### (2) 重点努力目標 ③授業力向上に向けた研究・実践

現職研修では、他者との協働による学びや、問題解決の過程で培われる力に視点を当て、子ども理解を土台とした学習展開や手立てについて授業研究を行っています。

児童同士の協働においては、これまで本校の研究で培ってきた「ラウンドスタディ」の手法を活用し、意見交流をより深めることができています。こうした実践の記録から、子ども一人一人が自信をもつ姿を明確にし、本校の授業研究を推進しています。

(主な授業研究会)

- ・6月5日(木) 宮崎 修平 教諭

4年社会科「新城クリーン大作戦！」

- ・10月20日(金) 鈴木 梓穂 教諭

5年国語科「みんなで考える！問題解決ミーティング

～勝利への作戦会議を開こう～

講師 作手小学校 村田 寛真 教諭(指導員)

- ・11月28日(金) 鈴木 麻穂 教諭

6年国語科「戦後80年の今、わたしたちにできること

～表現に着目した「模型のまち」の読みを通して～

講師 愛知教育文化振興会 保科 克之 様

## 3 学校評価の結果と分析

### (1) 児童による学校評価

#### ①集計結果「自分のこと」

上段:令和7年12月実施 下段:令和6年12月実施

番号	質問	年度	できた	だいたいできた	あまりできなかった	できなかった
3	給食を残さずに食べる。	R7年度	61	31	7	1
		R6年度	62	23	11	5
9	自分から進んであいさつする。	R7年度	59	29	9	3
		R6年度	53	31	12	4
10	交通安全に心がけ登下校する。	R7年度	68	28	3	1
		R6年度	61	30	7	2

質問3「給食を残さず食べる」質問9「進んであいさつ」質問10「交通安全」などの項目で、「できた」という回答が増加しました。自校方式からセンター方式の給食提供にな

り、これまで以上に市内で統一された給食指導や学校給食課から提供される献立に関するビデオ視聴など、楽しく食べる工夫が定着したり、月次のあいさつ週間や警察署と連携した交通安全活動などが定着したりしていることが要因と思われます。

## ②集計結果「学校・先生のこと」

番号	質 問	年度	思う	だいたい 思う	あまり 思わない	思わない
11	学校は楽しい。	R7年度	63	24	8	4
		R6年度	62	28	7	3
14	担任の先生は、努力したことを認めてくれる。	R7年度	69	24	6	1
		R6年度	69	24	5	2
15	担任の先生は、一人一人の子を大切にしている。	R7年度	69	24	6	2
		R6年度	78	15	4	3

質問 11「学校は楽しい」質問 14「努力したことを認めてくれる」の項目は、概ね昨年度と同様で変化ありませんが、質問 15「一人一人の子を大切にしている」の項目の「そう思う」の割合が 9 ポイント減少したことを重く受け止めています。チームで子どもと向き合うなどの対応や教員と児童との関係づくりの見直しをしていきます。

## (2) 保護者による学校評価

番号	質 問	年度	思う	だいたい 思う	あまり 思わない	思わな い	どちらとも 言えない
1	お子さんは、学校生活を楽しんでいると思いますか。	R7	54	36	8	1	2
		R6	52	42	4	2	0
5	学校は、子どもが健康的な生活ができるように指導するとともに、子どもの体力の向上にも努めていると思いますか。	R7	46	42	8	0	4
		R6	41	54	4	1	0
7	学校は、学校公開や通信、ホームページなどを利用し、情報発信に努めていると思いますか。	R7	35	48	12	2	3
		R6	28	56	10	1	5
8	学校は、保護者や地域と連携しながら、子どもの教育に携わっていると思いますか。	R7	29	55	11	0	5
		R6	23	58	10	3	6
9	先生は、子どもたちが意欲的に学べるように、指導方法を工夫していると思いますか。	R7	36	44	11	1	8
		R6	37	50	5	1	7
10	先生は、子ども一人一人のことをよく理解した上で、適切な指導をしていると思いますか。	R7	32	46	11	3	8
		R6	32	47	8	2	11

質問 1「お子さんは、学校生活を楽しんでいると思いますか」の項目で、「そう思う」が若干増加した一方で、「あまり思わない」の割合が倍増しました。「学校へ来るのが楽しいな」と児童が思える学校経営について不十分であった要因を分析し、子どもたちにとって「行くのが楽しくなる学校」への改善に努めます。

質問 5「健康的な生活/体力の向上」についても、「あまり思わない」の割合が増加しています。今年度は、病気等による 1 日あたりの欠席・出席停止者数が昨年度に比べ 1.1 倍（10%増）でした。インフルエンザ等の感染症対策や、子どもの体力向上について、学校三師（医師・歯科医師・薬剤師）の意見も伺いながら、取組の改善をしていきます。

質問 7「情報発信」、質問 8「保護者や地域と連携」については、肯定的評価は微増していますが、ホームページの更新頻度など、現状の情報発信が十分であるとは言い難いと認識しています。保護者や地域に「伝わる」情報発信へと改善を図っていきます。

質問 9「指導方法を工夫」質問 10「子どもをよく理解した上で適切な指導」の両項目

で否定的な評価が増加しました。児童アンケート質問 15 のポイント減も踏まえると、子どもをよく理解した上での適切な指導のためには、教師と保護者との子どもに対する相互理解を継続していく必要があると捉えています。

### (3) 教職員による学校評価

#### ①集計結果「個人の取組について」

番号	質 問	年度	1	2	3	4
			できた	だいたい できた	あまりで き な か っ た	でき な か っ た
5	子どもが自分から進んであいさつできるように指導した。	R 7	30	60	10	0
		R 6	52	29	19	0
6	一人一人の子どものことをよく理解したうえで、適切な学習指導を行った。	R 7	5	75	20	0
		R 6	24	71	5	0
9	子どもが健康的な生活が送れるように指導するとともに、子どもの体力の向上にも努めた。	R 7	5	85	10	0
		R 6	29	62	10	0

#### ②集計結果「学校経営について」

番号	質 問	年度	1	2	3	4
			思う	だいたい 思う	あまり 思 わ な い	思 わ な い
16	子どもにとって有意義な学校行事が位置づけられている。	R 7	25	75	0	0
		R 6	19	76	5	0
22	学校公開、通信やホームページなどにより、家庭や地域への情報発信が十分に行われている。	R 7	10	60	25	5
		R 6	19	52	29	0

質問 5「あいさつ」の項目は児童による学校評価の質問 9 との相関があり、継続していきたい内容です。また、質問 6「一人一人の子どものことをよく理解したうえで、適切な学習指導」については、「できた」が 19 ポイント減少しました。子ども理解と教材研究は、授業が成り立つ大切な要素です。授業や生活の場面で、個に応じた教材研究を深めるなど教師力、授業力の向上を図っていきます。

質問 16「学校行事」の項目は、肯定的評価が増えました。コロナ禍の制約が全くない年間計画が策定できるようになって 2 年が経ちました。今後も、保護者の意見もいただきながら新城小学校らしい行事の見直しを継続します。また、質問 9「健康的な生活/体力の向上」質問 22「情報発信」も、「できた・思う」のポイントが下がっている項目ですが、概ね肯定的な評価です。否定的な評価が増えないよう今後も注視したい項目です。

## 4 成果と課題

令和 5 年度から始まった給食受入施設の関連工事が、令和 8 年度 1 学期に予定されている仮受入施設(配膳室)の第 1 プレイルームの現状復帰により全て終了します。新しい施設、環境が整い、新しい新城小学校がスタートします。コロナ禍は過去のもとなり、問題解決の過程を大切にした授業、新しい行事の在り方については一定の成果が見られました。しかし、特別支援学級と交流学級の連携、不登校傾向の児童・家庭への対応など、日々の取組が求められることは山積しています。子どもの多くが「学校を楽しい」と評価している一方で、「子どもが学校を楽しんでいる」とあまり思わない保護者による学校評価が増えたことも課題です。

あいさつ、給食を残さず食べる、交通安全など、日常の生活を支えるよい生活習慣について「できた」と感じている児童の割合が増えている強みを生かしつつ、数字の後ろにいる子ども一人一人をとらえ、認め、励ますことを大切に、取組を継続していきます。